

**新宿区立落合第三小学校**

**学校運営協議会便り**

**平成27年9月3日**

**第3号**

第3回運営協議会　次第

1. 学校長あいさつ
2. 委員長あいさつ
3. 教育委員会支援課あいさつ
4. 「チームおちさん」の取り組み
5. 次回予定確認

学校長あいさつ

　２学期が始まり、子ども達も一回り大きくなって帰ってきたという感じがします。最初の１週間は生活のリズムが崩れていると感じられる子もいて長いお休みのあとは色々あるのだ、と思います。１週間たってだいぶ慣れてきたところです。幼稚園でも小学校でも「夏休み中、先生は5，6年生と一緒に西湖という富士山の近くに行ってこういうことをしたよ。」「みんなも色々な思い出ができたと思うけれど、２学期また頑張っていきましょう」という話をしています。

　１学期にもみなさんにご紹介させていただきましたが、「１学期のみんなの短歌がとてもすてきだったからまた書いてね。」と子どもたちに伝えたら、早速短歌作品箱に４枚入っていました。『みんな好き 長いお休み 終わったね もっとプールに 入りたかったな』『算数の 宿題いっぱい 困ったな つくづく思う 先生は鬼』子供じゃないと作れないと思うような素敵な短歌が出てくるので、またどこかで紹介したり、どこかに掲示したりしたいと思います。今、プールのことを子供が書いていましたが、先週、今週の初めと涼しい日が続いたり雨が降っていたりしたのでプールには入れず、プール納めができません。来週になってしまう学年が多いと思います。今日はかろうじて入ることができそうなので、１年生が3，4時間目にプール納めの式をやる予定です。

　以前、この地域協働学校運営協議会という会を学校の校内の地域協働委員会とリンクさせていきたいというお話をさせていただきましたが、リンクさせながら来年度につなげていくということを2学期にしていきたいと思います。先生方の中で協議会に出席できる方にその都度きていただき、地域協働学校に関連したお話をしていただこうと思っています。校内の地域協働委員会と地域協働運営委員会が協力して子供たちのことを考えた活動をしていくことが2学期中に出来、来年度への道筋をつけていけたらと思っています。

委員長あいさつ

今、校長先生のお話にもありましたが、長い夏休み子ども達は自由な時間帯の中で過ごしていて、早く学校生活に慣れてもらえればと思います。色々な意味において夏休みというのは危険が多い時期で、プロの先生方が子ども達を上手く導いて学校生活に馴染むようにやってくれるのではないかな、と期待していますので今後ともどうぞよろしくお願いします。

教育支援課あいさつ

　　　今日初めて参加させていただきますので、自己紹介したいと思います。区内の学校を退職して新宿区のお役に立ちたいということで、最初の年は幼稚園の方を主に担当させていただいて、スクールコーディネーター、山口さんのような方々のお世話をするということで2年間、それから小学校では環境整備委員会の防犯ポスター関係のこともやりながら、2年目からは中学校の方を担当してくれということで、中学校と養護学校を担当しています。係りの方で分担をしていまして、ここは森先生が落六を退職されて詳しいということで担当なのですが、今日は都合が悪く私が参りました。落合第二中学校はずっと担当してきたので落合三小のほうも理由があって知っているので馴染みのある学校だと思っています。

　　　「アラサー」という言葉があります。子どもを育てる上でひとつのヒントになるのかなということで、今、牛込三中の先生が言われていた言葉が記憶に残っています。「ありがとう」という言葉を言いましょう。子どもも大人も地域もみんなで言いましょう。ということ。「～らしくない」人を責めることがありますけれど、中学生らしくないよ、あなたらしくないよ、とか～らしくないという言葉をつけると子どもを傷つけなくて済むのではないかと。サは「さすが」さすがだね、と言われると子どもは嬉しいですよね。これを「アラサー」と言っていたのですが、いい話だな、と思ってメモをしていました。人間って褒められたり人に認められたりすると嬉しいのです。何を言うというより誰が言うかがとても大事。例えば「～しなさい」と言われても、自分が信頼していない人やどうでもいい人から言われても嬉しくないけれど、自分が尊敬している人や一目置いている人や自分のことを思ってくれていると思う人が言う、ということが子どもの心に響くのだろうと思います。誰が言うのかということが非常に大事だと思います。地域の皆様もそういう気持ちで子ども達を育てていく。企画書にあるように話し合って行くのだろうと思います。

　　　小P連の教育委員長を囲む会の予算要望とか中学校の方の予算要望がありました。なかなか一度には進むものではないですが、大事なことはPTAと学校と教育委員会は子ども達のために予算を使っていくということだと思っています。今あるものでも必要のないものは削ればいいわけで、必要なことを重点的にやることが大事だと思います。少子化のことが言われていますが、子どもを育てるところの人材とかにお金をかけなければ日本は確実にダメになるのです。技術とか先輩方がやってきたことをつないでいくために私達がいるのではないかと思っています。中P教に出ていても幼稚園や小学校のことが出てくるのです。中学校を卒業してしまえばある意味ただの区民、出口になります。そこで中学校のPTAの活動ってよかったな、と思ってもらいたいと思ってやらせていただいています。皆様方のご協力本当に感謝していますが、これからも落三小の子ども達のためにご尽力いただければと思います。よろしくお願いします。



チーム落三の取り組み

　今回は授業の合間を利用し、ご多忙の中、滝内先生と山田先生が既に行っている活動について御礼と紹介に来てくださいました。

夏休みのサマーワークでは地域の皆様にご協力頂き、子ども達に貴重な体験の場を作っていただきました。その経験を自由研究に生かした子どももいて、すごくいい経験となったと思います。ありがとうございました。（滝内先生より）

図書業務でどのように関わっているかをご説明に参りました。

まず、毎年教育委員会からのアンケートを実施しているのですが、落三の子ども達で学校の図書室が好きという子がどのくらいいると思いますか？図書室が好きという子は70％くらいいます。担当になった最初の年が59％くらいだったのでだいぶ上がりました。勧められた本をどれくらい読んでいるか（アンケート実施の1ヶ月以内）では、去年の結果が40％。最初の年が20％。他の学校に比べたらまだ弱いかな、というところですがこちらも上がっています。学校の授業で調べ学習の時にどれくらい図書室の本を使っているか、では、去年は69％位、最初の年は40％くらいで支援員さんのおかげでだいぶ良くなってきています。

現在行っている図書の業務は大きく分けて7個くらいあります。この担当を学校ではすべて私となっていますが、ひとりで出来る訳がない量です。読み聞かせ活動、図書室整備などは保護者ボランティアによって支えられています。蔵書点検もお手伝いいただいています。すでに地域協働として成り立っているので磐石ではないかと思われます。では、地域協働学校でほかに何ができるのか。それは読み聞かせの世話係。連絡を私が取らせていただいているのは普段の読み聞かせでは保護者の方、図書館スタッフ、今年から幼稚園の保護者の方。読書月間では西落合図書館のスタッフ、教職員などですが、これが精一杯です。例えば地域の方や学生さんなどが読み聞かせに来てくださるなど、広げていくのに新たな窓口を設けることができたら、もっとすばらしいものに、子ども達ももっと本が好きになるのではないのかな、と思います。今すでに強制ではなく好意で来ていただける方によってやっているのでこれをベースに地域協働に繋げていけるといいなと思います。（山田先生より）

地域協働学校は今年度に本格始動したばかりです。まずは以前から行っている活動の移行をスムーズに行い、子ども達の取り巻く環境をより良いものとするため委員会では組織作りを進めています。





運営協議会より

今回は学校からの要望のうち３つを新たに進めていくよう話し合いが行われました。現在の状況からボランティアの方にお願いする前に、まずは自分たちでやってみる、という企画もあがりました。少しずつですが新たな取り組みも進んでおります。

最後に教育支援課の下津さんからは、学校が地域に何ができるか、地域が学校に何ができるか、今までやっていたことはそのまま地域として継承し、それら双方の活動が子ども達をみんなで守っていくことになるのだと思います。というお言葉をいただきました。

　子ども達が地域の宝となるよう取り組んでいけたらと思います。